

マダガスカルからの研修員であるMs. RAZATOVOMANITRINIARIVO Hobimalala Nadiaより近況活動報告のメールをいただきましたので、次頁で紹介させていただきます。

彼女の役職は、Technical Collaborator, Emergency Response Service, Ministry of Water, Sanitation and Hygieneで、彼女は2025年7月～8月にJICA九州にて行われた統合水資源管理に関する研修コースに参加しておりました。

正式な研修コース名： 地域の水問題を解決する実践的統合水資源管理

コースリーダー：緒方 信一

統合水資源管理の能力構築の一環として、日本で開催された専門研修プログラムに参加することで、特に洪水などの水文気象災害の予防、準備、対応に関する深い知識を身につけることが出来ました。

この研修を受け、アラオトラ・マンゴロ地域の気候災害に対する脆弱性の高まりを踏まえ、洪水管理に焦点を当てた具体的な行動計画が策定されました。

アラオトラ・マンゴロ地域は、2026年1月下旬にサイクロン・フィティア、そして2026年2月10日にサイクロン・ゲザニの連続通過によって深刻な影響を受けました。これらの災害は大規模な洪水を引き起こし、特に水・衛生(WASH)分野のインフラや住宅に大きな被害をもたらしました。洪水は安全な飲料水や衛生サービスへのアクセスを深刻に妨げ、影響を受けた人々の健康リスクと脆弱性を高めました。

この計画は2025年から2026年にかけてのサイクロンシーズン中に実施され、関係者間の調整を改善し洪水リスクへの対応力を高めることに貢献しました。

この行動計画の成功裏に実施されたステップは以下の通りです。

- サービスチーム、地域ディレクター、水・衛生省事務総長、並びにマダガスカル/JICAチームの間で研修成果の共有と議論を実施
- 地域水・衛生局(DREAH)との直接連絡やソーシャルメディアで共有された情報を通じて、アラオトラ・マンゴロ地域のサイクロンの影響を監視
- アンバトンドラザカ県が主催する調整会議への参加を促進するため、メールやWhatsAppのやり取りを通じて地域水・衛生局(DREAH)へのリモート支援を提供
- ユニセフ及びNGO アドラと連携し、地域における緊急水・衛生支援活動を強化するための提言
- BNGRCと協力して国家緊急基金への資金申請準備に貢献
- JICA マダガスカルと提携して支援申請を準備
- アラオトラ・マンゴロ地域の災害後のニーズ評価(PDNA)文書作成への貢献

達成された成果:

- ユニセフの支援により、被災世帯向けに100個の折りたたみ式貯水容器と160本の浄水ボトルを調達
- 緊急対応の強化のために、国家緊急基金(FNC)からの資金を確保し、1,200本の浄水ボトル、1,200個のバケツ、2台のモーターポンプ(付属品付き)、2個の水消毒(HTH)容器の購入
- NGO アドラによる627個の貯水容器の提供による安全な水貯蔵支援
- JICA マダガスカルの支援により、洪水リスクにさらされているコミュニティ向けに水・衛生(WASH)に関する2,500枚の啓発ポスターの制作

次のステップ:

アラオトラ・マンガロ地域のサイクロンによる洪水で汚染された井戸の消毒ミッションを実施



豪雨予報



アンバトンドラザカ市の洪水



豪雨被害に伴う避難市民の様子



緊急対応活動のための地方自治体及び関係者による調整会議



提供された浄水ボトル



提供されたモーターポンプと付属品



アラオトラ・マンゴロ地域の被災者への
貯水容器の配布



JICA マダガスカルからの洪水対策支援
のための啓発資料の受領



洪水発生前、発生中、発生後の対応策に関する周知ポスター



アラオトラ・マンゴロ地域における水・衛生セクターに関する被害・損失の評価